



多様な生活の場を支える インクルーシブデザイン

創造工学部 創造工学科 助教 藤井容子

研究シーズの概要

建築計画では、ユーザーとしての人間（利用者・入居者）の特性や要求を把握し、設計上必要となる寸法、空間規模・形態の計画、設計方法などについての対象を、成人健常者だけでなく高齢者・子ども・障がい者などへ広げてきました。

ユニバーサルデザインには「ユニバーサルデザインの7原則」があり、7原則の内容のほとんどは使い勝手についてであり、これがデザイン発想の基本にあります。

他方、インクルーシブデザインとは、これまであらゆる領域で製品・サービスから排除されていた人々を、企画・開発の初期段階から巻き込んで一緒に考えていくデザインの方法で、人々が自然に使いたりポジティブな思いが持てるようデザインします。「使える」に「楽しく」という感情が加わると、デザインは大きく異なることとなります。

また、インクルーシブデザインには、健常者には気づかないような発見があるとともに、高齢者や障がい者向けだけでなく、多くの人々が追求できるデザインをも実現します。応用される領域はプロダクトに限らず、サイン計画もあれば空間設計など多岐にわたり、広い範囲での活用が可能です。個別性豊かなユーザーをイメージすることで小さな工夫やアイデアが生まれ、より暮らしやすい・より使いやすい・さりげないデザインにつながります。そして、このことによって、誰もが心地よさ・嬉しさ・楽しさを感じることができるようデザインへと結びつくものと考えます。

これまで、高齢者・子ども・障がい者のニーズに即したデザインや住空間について、ハード・ソフトの両面から研究するとともに、福祉施設などへの設計協力、計画協力、アドバイスなど自身の研究成果を活かした実践活動にも積極的に取り組んできました。これからも、「その人らしさ」をもち続けられる環境づくりとともに、ユーザーの個性が見られるデザインの提供に寄与したいと考えています。

【利用が見込まれる分野】 建築分野、福祉分野、教育分野、医療分野

研究者プロフィール

藤井容子 / フジイヨウコ



メールアドレス fujii@eng.kagawa-u.ac.jp
 所属学科等 創造工学部 創造工学科
 所属専攻等 建築・都市環境コース
 職位 助教
 学位 博士（工学）
 研究キーワード 建築計画学、とくに人間の心理・行動に基づく環境デザイン

問い合わせ番号：EN-15-001

本研究に関するお問い合わせは、香川大学産学連携・知的財産センターまで
 直通電話番号：087-864-2522 メールアドレス：ccip@eng.kagawa-u.ac.jp

【事例1】 フレキシビリティのある空間デザインとヒューマンスケールの安心できる空間計画



ロールカーテンでゾーン分けした

■ 重度重複障がい者グループホームの事例

広い空間が苦手な入居者への対応として、基本的な室の広さを確保したうえで、食堂の梁にロールカーテンを設置し、空間のゾーン分けができるようにデザインしました。

入居者各々にとって適切な空間が提供されたことにより、行動の切り替えがスムーズにできるようになるとともに、彼らの興奮状態を鎮めることができる場の提供は、本人はもとより、介助者にとっても安心な生活につながっています。

【室名サイン】

児童が認識しやすいよう、サインは大きく、かつ、絵入りにした。



凸凹をできるだけ少なくして安全性を確保するため、壁収納家具を採用した。

【事例2】 安心と安全が両立可能な家具デザインとわかりやすいサイン計画

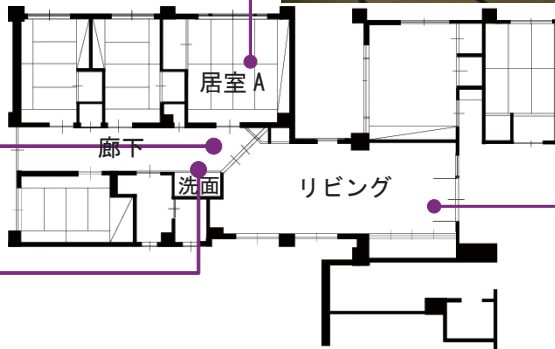
■ 知的障がい児入所施設の事例

体のふらつきが多い児童、目に入ってきたものに気を取られて落ち着きを失うことがある児童への対応として、壁仕上げには木質系内装材を採用するとともに、一面を凹凸のない壁面収納とし、家具の内部に時計やテレビ等の設備機器を収納することで視覚的に目立たなくするよう工夫し、また、天井面には凹凸のない照明器具を選定するなど、調節可能な状況を提供しました。加えて、サインは大きく、かつ、文字・絵・色彩を効果的に活用して、児童が認識しやすい表現を採用しました。

廊下



居室 A



児童の過度な興味を引かないよう、設備機器は家具内に収納した。



洗面

リビング



児童の精神的な安定を確保するため、児童の視線の上部までを木質系内装材の仕上げとした。

これらのことにより、物品の収納に余裕ができるとともに児童に精神的な安定感が生まれ、1ヶ月程度の間に、それまで破壊行為・自傷行為・異食に及ぶことがあった児童の行為に改善がみられるようになりました。